

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う 学校指導への影響に関するアンケート」 第2回・結果レポート

ベネッセ教育情報センター
ベネッセ教育総合研究所 VIEW21編集部
進研模試編集部

【調査テーマ】

- ① 臨時休業中および学校再開後の各教科・科目の履修の進め方や授業方法について
- ② 臨時休業中の学習内容の定着度および学校再開後の学習評価の検討状況について
- ③ 受験生切り替えを促すための取り組みについて
- ④ 探究学習の実施状況と今後について

【調査方法】

インターネット調査（※）

- ※ ハイスクールオンラインが発信するメルマガにウェブアンケートのURLを記載。
また、ハイスクールオンラインのトップページにもウェブアンケートのバナーを表示。

【調査時期】

2020年5月18日（月）～5月27日（水）

【調査対象・回答数】

高校教師・247人

【調査項目】

臨時休業中の履修の進め方や授業方法についての工夫 / 学校再開後の履修の進め方や授業方法についての見通し・課題 / 臨時休業中の学習内容を確認するテストの実施状況・学習内容の定着度の状況 / 学校再開後の学習評価の検討状況 / 受験生切り替えを促すための取り組み / 臨時休業前の「探究学習」の実施予定と5/18時点の実施状況 / 5/18時点で「探究学習」を実施できている要因や実施上の工夫 / 「探究学習」に最も期待していること / 現状においても「探究学習」が重要だと思ふ理由 / 「探究学習」を今後実施するにあたり考えている工夫・他校に聞きたいこと / 今回の事態を受けて、中長期的な視点で考えた探究学習のあり方

【臨時休業中の履修の進め方について工夫した点】

- オンライン授業の取り組みが多くみられたが、なかでも、学習する分野特性を見極め、「生徒が自学でできることは自学で進めること」「オンライン授業を行うこと」を分けて考える事例も複数みられた。
- プリントによる課題を出すという事例が多くみられたが、なかには必要なところは動画解説を配信するという事例もあった。
- 年間の履修順も変更し、自学で進められる分野を先に（臨時休業期間中に）行うという事例もあった。

【学校再開後の履修の進め方についての見通し】

- 夏季休業も利用しながら、おおむね従来の計画どおりに履修が進められるという声が多かった。
- 今後において臨時休業する危険性を想定し、オンライン授業は引き続き進める、という声が複数みられた。
- 臨時休業中の指導内容について、まずは復習から始めるという声がある一方で、復習はせずに通常どおり履修を進めるという声があり、意見が分かれる結果となった。
- 小テストを使って臨時休業中の学習内容の定着確認をしながら、進度を前に進めるという声もあった。
- 特に高3においては、入試傾向を踏まえて、今後の指導内容に強弱をつける、という声もみられた。

【学校再開後の履修の進め方について課題に感じている点】

- 「臨時休業中の学習の定着度をどう確認するか」、「評価をどのように行うべきか」について課題と捉えている声が多数みられた。
- 夏季休業を使って履修を進める一方で、生徒に自学をさせる時間がとれないことに課題を感じる声がみられた。
- 三密を防ぐ一方で、特に「グループワーク等の言語活動」「英語4技能指導」「理科の実験」「保健体育の評価方法」について課題と捉えている声が複数みられた。

【臨時休業中の学習内容の定着度について】

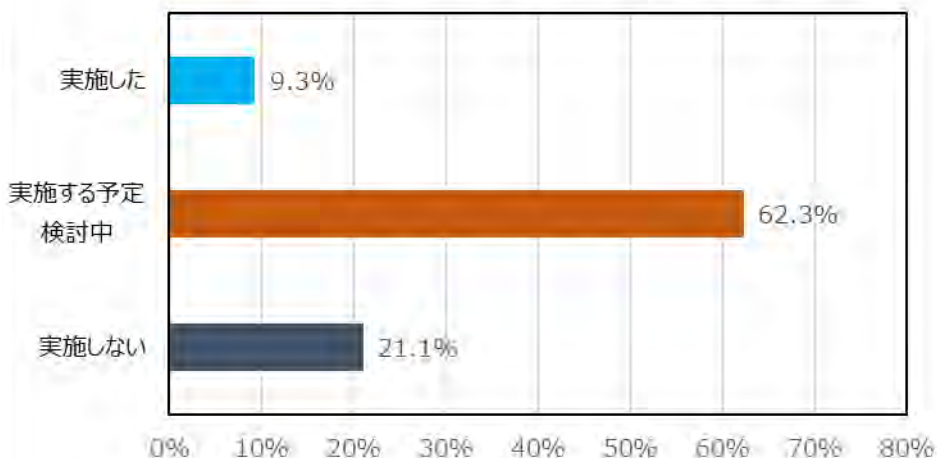
- 「学校再開後に臨時休業中の学習内容の定着度を確認するテスト」を検討している学校は半数以上あり、定着度を確認しながら今後の指導計画を検討していこうとしていることが伺える。
- すでに定着度を確認するテストを実施した学校の多くが、「概ね定着できている」と回答している。

【定期テストの見直し・家庭内での学習評価について】

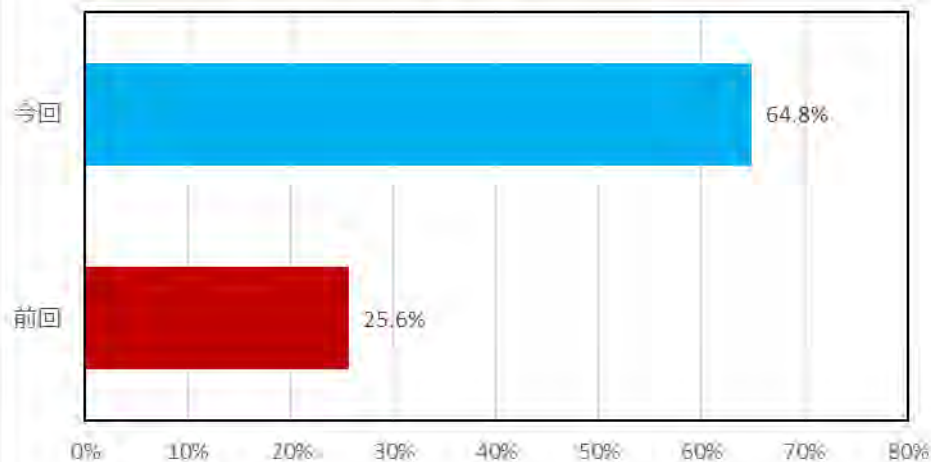
- 「定期テストの時期見直しや部分的な廃止」を決定した学校は半数以上あり、前回のアンケートと比較をしても「決定」の割合が大きく伸びていることから、約1か月の期間で校内での検討が進んだと考えられる。
- 「家庭内での学習を評価に組み込む」ことを決定した学校は半数近くあり、前回のアンケートと比較をしても「決定」の割合が大きく伸びていることから、定期テスト同様に校内での検討が進んだと考えられる。
- 「家庭内での学習を評価に組み込む」ことを決定した学校のうち、多くの学校が「定期テストを部分的に廃止する」も決定している。

【学校再開後】

臨時休業中の学習内容の定着度を確認するテスト



定期テストを部分的に廃止することを決定 (中間考査をやめ、期末考査だけにするなど)



※前回…2020年4月20日(月)～5月1日(金)の回答期間

- 受験生への切り替えを促すための取り組みとして複数の声が挙がったのが、「従来の切り替えの機会の代替としての行事の実施」「進路行事の実施」「面談の実施」「情報発信」「学習指導」「ポートフォリオの活用」の6点であった。
- 中でも、「従来の切り替えの機会の代替としての行事の実施」「進路行事の実施」「面談の実施」「情報発信」については、多くの教師が取り組んでいる、もしくは今後取り組もうとしているようである。
- また、「進路行事の実施」「面談の実施」「情報発信」については、オンラインツールを活用した取り組みも複数みられた。

【探究学習の実施状況】

- 約80%の学校が、臨時休業前の時点では、2020年度に「探究学習」を実施する予定であった。
- 2020年度、「探究学習」を実施する予定であった学校のうち、5月18日時点で予定通り実施できているのは約2%、一部変更しての実施は約15%、ほぼ実施できていないが約75%、中止が約3%。
- 5月18日時点で「探究学習」を実施している学校は、オンラインツールを活用したり、実施が難しくなった行事の時間を探究学習にあてたり、あるいは授業時数を調整するなどして探究学習の時間を確保したりするなどの工夫をしていた。

【「探究学習」に最も期待していること、現状において「探究学習」が重要な理由】

- 「探究学習」に最も期待していることは、「主体性・学びに向かう力の涵養」という回答が最も多く、「探究学習」が重要な理由としては、「主体性の涵養」や「進路意識の醸成」を挙げる回答が多かった。

【「探究学習」を今後実施するにあたり考えている工夫点・他校に聞きたいこと】

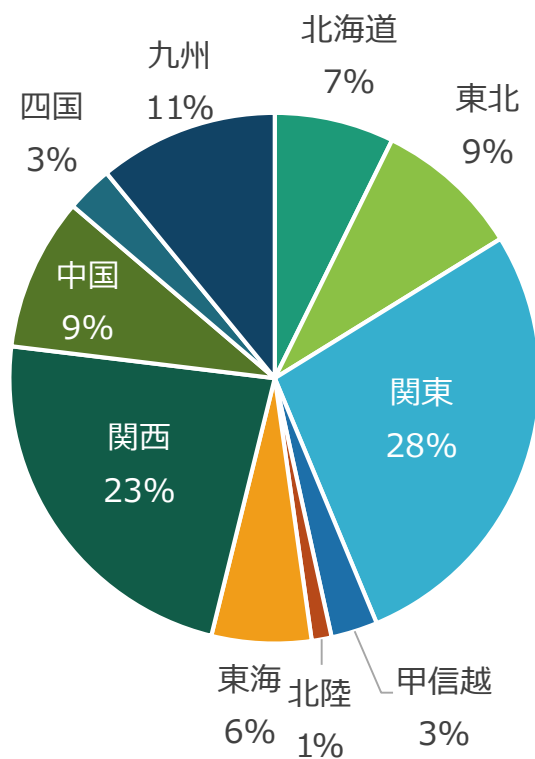
- 「新型コロナ」という社会問題の影響を踏まえて、「テーマ設定」「外部連携」「実施形態」において工夫点を模索しながらも、課題を感じているという意見が多かった。

【中長期的な視点で探究学習のあり方について考えたこと】

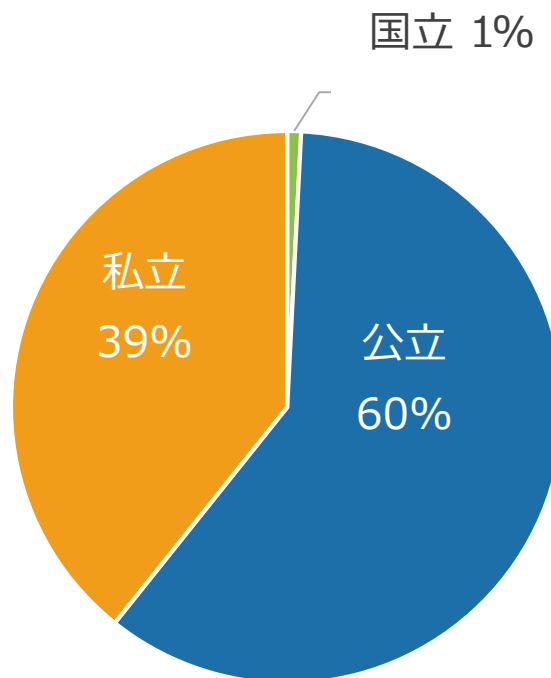
- オンラインツールの活用によって、「探究学習」の可能性が拡大したという意見や、「生徒主体の学び」の機会を設けたいといった意見があった。

回答者の属性

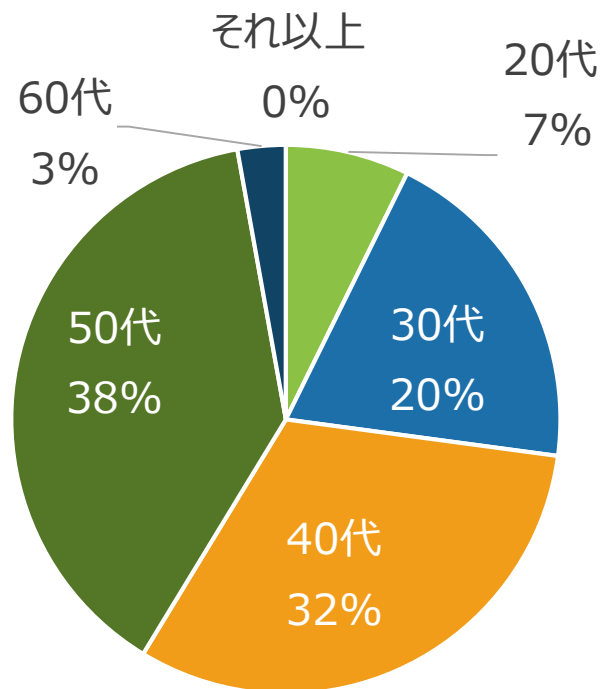
【エリア構成】



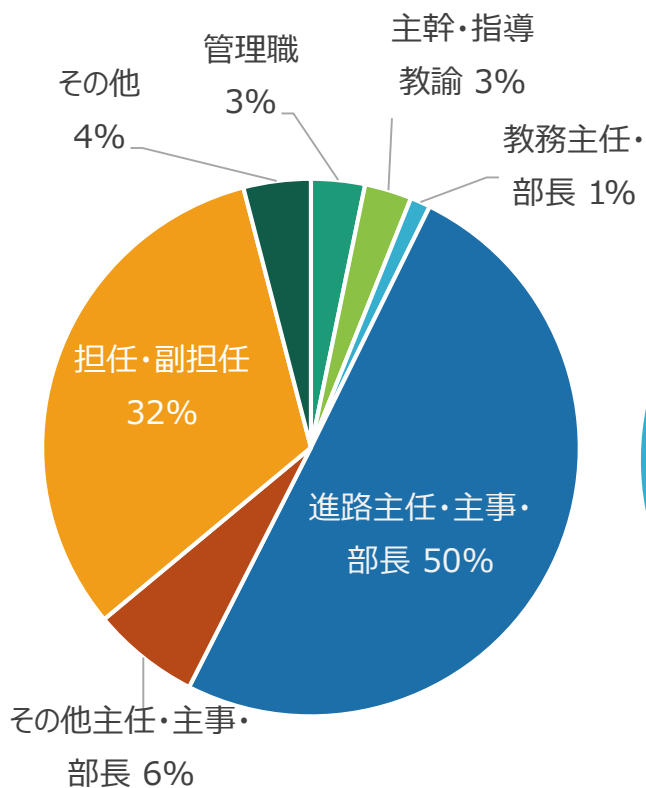
【設置区分】



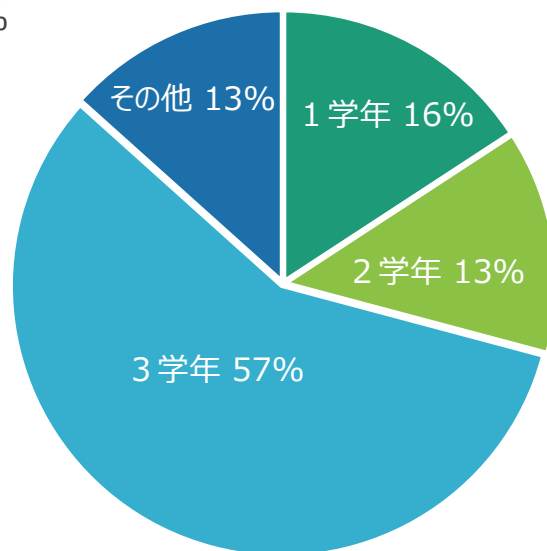
【年代構成】



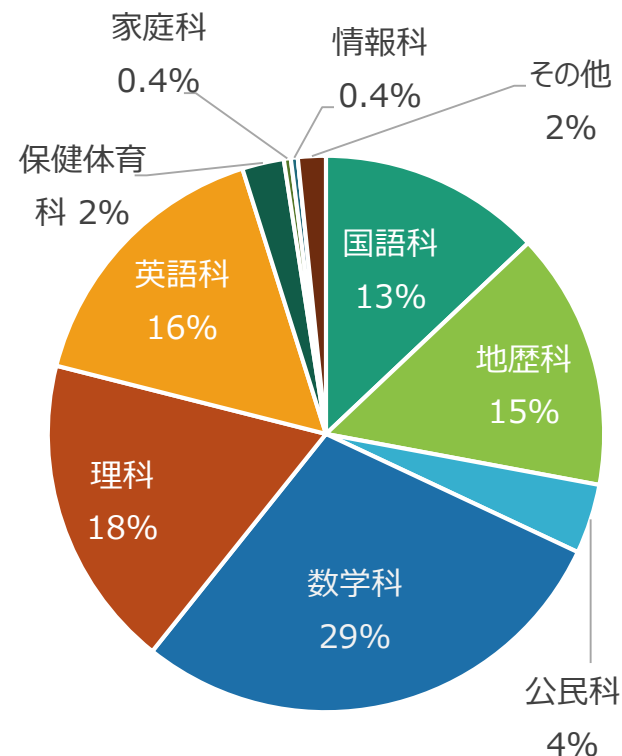
【分掌構成】



【学年構成】



【教科構成】



① 臨時休業中および学校再開後の各教科・科目の履修の進め方や授業方法について

国語

- 知識事項の理解・習得や教科書の文章の事前通読など、臨時休業明けにスムーズに授業へ移行するためのインプット&アウトプット活動を行っている。
- 文章の深い内容理解については、動画や音声による解説を用いている。

<p>1学年 2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙など、自力で学習できるものに絞って課題を出している。 ・臨時休業明け、授業開始後にスムーズに読解に入れるように、授業で扱う作品を事前に読ませ、あらすじをまとめさせている ・パワーポイントに音声を吹き込み、動画化したファイルをYouTubeにアップし、生徒に視聴させている。 ・オンライン学習の実施。パワーポイントを利用して、教科書本文の可視化、板書の見やすさを目指した。
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文では、夏期講座用に準備していた句法の解説・覚え方、基本問題・応用問題を一日分ずつプリントにしている。（登校日等に質問を受けつける） ・オンライン授業を通して教材への興味を喚起できるように注力している。 ・課題については、じっくりと時間をかける必要のある小論文などを課している。 ・ライブ配信型、動画配信型、テキストベース型の三種類の形態を使い分け、年間指導計画から大きく逸脱しない範囲で授業を展開している。なお、オンラインでの機器設備に関しては、必要に応じて学校から各家庭に貸与する体制を整えている。

- 臨時休業期間中の課題の確認や理解促進を行う学校が多い。
- 夏季休業の短縮等で授業時間を確保する学校もみられた。

<p>1学年 2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題で取り組ませたプリントやワーク等について確認・解説を行う。 ・演習等の「生徒が自宅でできる学習」については、引き続き、宿題として出す。
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた問題演習の開始を10月前後と予定していたが、今後の動き（さらなる臨時休業対応）も見据えて前倒しで行うことも検討している。 ・課題プリントの復習等を通じて理解を進めていく。夏季休業の短縮によって授業時間が確保される見込みなので、当初の指導計画どおりに進めていく。 ・夏季休業の短縮で、希望者に行っていた補習授業が少なくなったため、3年生においては、授業の中で総合演習を多く取り入れるようにする。

- 臨時休業期間中の生徒の学習習慣に関する課題が目立った。
- 3年生においては、当初予定していた受験指導戦略をどう変更するかという内容がみられた。

1学年 2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業から離れているため、学習習慣・姿勢を取り戻すのに時間がかかるのではないか。 ・内容を精選することで例年通りの学習や知識の定着ができるかどうか不安。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文法と読解のバランスをどうするか検討している。 ・本来、1学期半ばまでは、基礎を定着させるために、丁寧に進める予定だったが、課題としてプリントを配布したため、苦手意識を持つ生徒にとっては、やや厳しい状態のままスタートすることになり、基礎力の定着が図れるかどうか心配。本来なら一定の時期まで基礎力充実を図り、学力差を小さくしたうえで、問題演習に移行していたが、時間に余裕がないため難しい。どの生徒に照準をあてて授業を進めるかが、悩ましい。 ・臨時休業中に古典文法を中心に知識が失われているだろう。さらに、長文を読む集中力も減退しているだろう。 ・大学側の動き（入試をどうするかなど）がまだ具体的に見えないため、対策しにくい部分がある。

数学

- 大きく分けて三つの方法があり、それらを組み合わせて行っていた。
 - ① 課題プリント等を出し、提出させる
 - ② 動画配信（YouTube等の動画配信サービスやClassiなどの活用）を用いた映像授業
 - ③ Zoomなどを用いた双方向型の個別指導
- 個別で取り組みやすい単元から行えるようカリキュラムを柔軟に組み替えた学校もある。
- 予定より進度が早い学校もある。

1学年

- ・教科書の問題・まとめプリントを解かせ、登校日（週1回）に提出。
- ・教科書や問題集の例題のスライド動画説明（約15分）を配信し、課題を提出させ、添削し返却している。
- ・教科書の練習問題を解いたノートを生徒が写真に撮り送信、こちらで添削して返却している。授業代わりに動画の視聴を勧め、教科書のどの練習問題がどの動画の第何講に対応しているかの表を作成。結果、昨年度より早いペースで進めている。
- ・GW明けから教科書の例題の解説動画を作りホームページに載せた。飽きないように一つの動画は5分程度とした。

2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の視聴環境が整っていないので、3年生で予定していたI・A問題集を購入、復習演習を自学の形でさせた。 ・教科書の例題～応用例題を理解（予習）し、問題を解く。難しい問題については、解説を行う動画を配信。さらに練習問題等の解説をPDF等で配付した。 ・オンライン授業を提供。科目ごとに担当者を決めて、教員の負担を軽減。収録の際のみ、出勤。生徒は授業担当ではない教員から授業を受けるが、どの単元をどのように教えたのか、課題として問題集のどの番号を指定したのかなどは引き継ぎメモを作成している。 ・個別で取り組みやすい単元から自学自習するように、少し進度表の内容を変えた。例えばベクトルより数列を早めることをした。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題集において、平易な問題を数多くこなすスタイルに変更した。 ・2種類のやり方で実施した。 ①対面授業ではなく、授業動画を配信した。教室で黒板を使用して実施。撮影機材はスマートフォン。撮影後に編集作業を行い、板書を書いている時間をカット、大事なところにテロップを入れるなど、なるべく完成度の高いものを作成した。 ②上記①の授業動画の配信だけでは一方通行なので、質問もきちんとできるようにSkype等のアプリを使用して、個別指導を行った。①②によって、履修範囲は遅れを取らずに進める事ができた。達成度については臨時休業明けに確認する予定。

- 夏季休業短縮、行事縮小、放課後特別授業などを実施し、基本的に履修計画通りに進められる予定という回答が目立つ。
- 自習の内容は学習済みとし、臨時休業明けにテストなどで定着状況を確認しながら、通常より短い期間で復習する。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季特別授業を増やして、授業時間数を補う予定。欠けた時間のすべては補えないので、今後の工夫も必要。 ・クラスの半分が登校し、40分授業で今まで配信した課題のポイントを説明。 ・一通り自宅で学習させたところは、一旦終わったことにして、先へ進む予定。 ・ほぼカリキュラム通りだが、演習量が多少足りないかも知れない。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・分散登校や短縮授業の可能性が高いので、現在実施している動画配信を軸に反転授業を実施する予定。 ・1学期で進める予定だった内容は可能な限り1学期中にできるようにオンライン上で課題に取り組ませている。再開後に同様の内容を行い、定着率等を測りつつ、授業の進度を加速させていく予定。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中に配信した動画を上手く活用しながら、進度を進め、例年通りの学習内容を行う。これからも動画を予習用に配信していく予定です。 ・シラバスの予定を遅らせ、復習に割いていた時間などを動画教材を活用して各自に任せ、進度を早める。

■ 大きく分けて3つの課題があった。

- ① 生徒の定着状況の差をどのように埋めるか、フォローするか
- ② 再度、臨時休業になる可能性もある不安定な中、どのように授業を進めていくか
- ③ 受験に間に合うかどうか（主に3年生）

■ 都道府県によっては分散登校や短期間登校、蜜を避けた授業形態などにより、AL型の学習ができないことによる授業形態の変化を気にしている学校もあった。

1学年

- ・生徒が咀嚼できているか。（厳しい生徒もいたのではないか）
- ・担当教科というよりは職員全体の統一感や取り組ませたい内容の齟齬が課題。職員全体の合意形成がうまくいかず、前に進めていない。
- ・生徒の学校離れ。塾等が進路指導も含め進めてしまっているかもしれない。
- ・5月は県の指導で学校活動の時間が制限されているため、授業時間が35分の日もある。演習時間が十分にはとれないうえ、密になることを防ぐため教え合いも禁止しているので、ゆっくり、繰り返し練習しないと理解できない生徒はついてこれなくなりつつある。

2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生で終了すべき内容が終了できるように行うが、生徒の理解度によっては、3年生の4月～5月まで2年生の内容がずれ込むことが予想される。 ・再び緊急事態宣言が発出され、臨時休業になったときに評価を出せるだけの定期試験を済ませられるかどうか。 ・授業中における会話やグループ学習は避けるようにとの指示なので、近年取り組んできたAL型の学習から逆戻りしてしまい、生徒の意欲などに悪影響が生じてしまうのではないかと心配である。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・演習量の確保（受験学力を例年通りつけるための方策が思いつかない） ・生徒による習熟度の差（十分に学習できなかった生徒へのフォロー） ・長期休業を短縮したり、行事をなくしても進度が間に合わない。 ・いつまた臨時休業がやって来るかわからないので、いかに自学力を高めるかが課題である。学校全体のコンセンサスが得られれば、動画配信をしたい。

英語

■ 英語の音声を生徒に吹き込ませて提出させる、ポートフォリオで自己紹介の英作文を提出させるなど、オンライン環境を活用しながら、生徒がアウトプットし、それを教員が確認できる環境をつくっている。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオを利用した自己紹介英作文の提出課題を行った。 ・自学自習プリントを郵送した。参考になりそうな動画をClassiから配信した。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointのスライドを画面共有しながら、オンラインで解説を行ったり、Excelをフラッシュカードの代わりにして単語の確認（生徒が各自チェック）を行ったりした。（2学年・3学年）
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語に関しては、予習用の自作プリントを臨時休業に入る前に配付し、取り組ませた。進度は遅くなってしまったが、同じプリントで予習をすることによって、授業はスムーズに進められている。英語表現に関しては、臨時休業期間中にZoomを使って遠隔授業を実施した。英語表現はオンラインでもあまり違和感を抱かずに実施できた。 ・授業映像の配信、Classiに生徒の英語音声吹き込ませ添付提出。リスニング教材を添付して聞かせるなど読んで書くもの以外の取り組みをしている。（4技能を取り入れながら） ・オンデマンド式の動画授業を作成し、Microsoft Teams 上で生徒に配信した。

■ 「文法項目を絞る」「リスニングを強化する」など取り扱う内容を厳選したり、臨時休業期間に取り組んだことは既習事項としてテストで確認し、再開後の授業でコミュニケーション活動に活用したりするなど、授業・場で行うことを焦点化させるようにしている。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・英語は中学からの復習が多いので、それほど進度にしばられないと思う。ただ、文法については教科書をはじめから終わりまでやることは無理があるので、取り扱う項目を決める必要があると思っている。 ・5月に郵送した課題を復習しながら2か月分を少し速いスピードで進める必要がありそう。 ・臨時休業中に行ったWEBテストの範囲を再度課題テストとして問う。作文課題については、それらをもとにコミュニケーション活動を行う。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・映像授業の内容は既習項目として扱う。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの問題演習とリスニングを強化して指導する予定。解説等についてはオンラインでも行う予定。 ・学校再開後も予習として動画を視聴させ、授業では質問に答えるという反転授業を始めている。

■ コロナ対応で「ディベート」「ディスカッション」などの話す取り組みや音読活動を行いにくくなっており、4技能バランスよく取り組ませる授業が難しくなりそうで不安を感じる。また、その評価もしづらくなることが懸念される。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・英語でスピーキングの活動が今までよりも重視されるのにコロナ対応で授業ではスピーキングができなくなるので指導が大変厳しい。 ・映像配信により課題を順調に進めている生徒と対応できない生徒の間にできた差をいかに埋めていくかが大きな課題。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間数の確保。教科書を進めることが主になり、英語の授業で言語活動的な時間はさけそうにない。 ・会話練習や音読練習にどれくらいの制限がかかるのかが不明。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング指導がしばらくできなかったため、どうやって時間を確保するかが課題である。学校は再開したが、短縮授業のため、なかなかまとまった時間を取ることができない。 ・コロナ対策のために「授業で近距離での発話や会話を回避することが不可欠」ということだが、英語はどのような授業展開ができるのか不安。ディベート、ディスカッションなどの話す取り組みがタブーとされると、4技能を評価することが難しくなるのではないかと不安。また、ペアワークなど、アクティブラーニング的な活動も一切できなくなることも不安を感じている。

理科

■プリント学習等の自習で進められる分野と、解説が必要な分野を見極め、特徴に応じた方法で履修を進めた。オンライン授業では、理解を深めるために、事前プリントを配布したり、動画視聴を組み合わせた。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布した上で、Zoomを用いたオンライン授業を行った。 ・オンライン授業では、基礎基本に重きを置き、ホワイトボードを映して補足しながらゆっくり進めた（物理） ・授業の補充として、問題集を解かせたのに加え、既存の動画コンテンツを指定して視聴させた。（生物）
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「酸化数」の単元等、教科書を見ながら自学自習で対応できる分野を、課題としてプリント課題を郵送した。（化学） ・科目に対する興味関心を促し、授業に前向きに入れるように、地球に関する大きなテーマでのレポートを課した。（地学）
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント課題を配布して進めたが、光の干渉についてはプリントだけでは理解が難しいので、教科書に沿った授業を配信した。（物理） ・無機化学は暗記事項が多いため、副教材を各自で解き進めるように指示をした。（化学） ・遺伝子からのスタートだったため、4月の課題として、PCR法やDNA塩基配列決定について調べる課題を与えた。（生物）

- 臨時休業中に自習やオンライン授業で進めた部分は、小テスト等で定着度を確認する。
- 観察・実験は、オンラインでは限界があるため、学校再開後に実施する。

1学年	<p>・オンライン授業で、ほぼ予定通り授業を進められたため、夏季休業を授業に充てることで、通常のペースに戻せる見込みである。（生物）</p>
2学年	<p>・授業動画を配信した箇所は、小テストで内容の定着度を測定する。（化学）</p> <p>・動画の視聴指示はしたが、視聴できていない前提で授業を進める予定。毎日7時間授業とし、それでも足りない分は夏季休業を短縮する。（地学）</p>
3学年	<p>・授業ではポイントのまとめに重点を置き、問題演習や細かい内容については補習で補う。（化学）</p> <p>・プリントやオンライン授業で進められるところは進めたが、実験は動画で見せただけになってしまっている。学校では、生徒に実際に実験をさせたい。（生物）</p>

■ 授業時数の不足や生徒の理解度についての不安に加えて、実験を行う際の環境が「三密」になってしまうという、理科特有の課題がある。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業で生徒がどれだけ理解できたのかが把握できていない。理解度によっては、復習に多くの時間を費やす必要がある。（生物）
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験室で授業を行う際に、隣同士の距離が近く、対面している状態になってしまう。（地学）
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を予定していたが、授業時数が限られる中で、予定通り実施すべきかどうか。また、実験はグループで相談して行うため、「三密」回避の観点からも課題がある。（化学） ・入試までに、総合型選抜・学校推薦型選抜の口頭試問に対応できるレベルまで理解を深められるか。（化学）

地歴

※集計数の都合により、「世界史・地理」と「日本史」を別にしてまとめております。

- プリントとYouTubeなどの動画配信を組み合わせる授業を進めているという声が多い。
- 振り返りには、オンラインツールのアンケート機能も活用されている。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をまとめたプリントを郵送にて配付し、授業動画を作成してYouTubeで配信した。プリント完成と動画視聴で単元を終わらせたことにした。 ・生徒には「テーマ」と「問い」を課題として投げかけ、モジュール(概観、整理、振り返り等)ごとに活動を積み重ね、テーマに立ち返るサイクルを自分で回すように投げかけた。講義の部分だけパワーポイントと音声のみの短い動画を配信し、振り返りはアンケート機能(Googleフォームなど)を用いて行った。また取り組んだ成果をポートフォリオにまとめさせて提出させ、「文通的な双方向」のやりとりを目指した。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・分散での授業時間・進度を確保するため、プリントを観点別に分け、学校の授業では1つの観点のプリントの答え合わせのみ、それをもとに「復習テスト」を実施。プリントは学校ホームページ上で公開し、分散で来ない日の自宅学習を促す。 ・YouTubeに日本史実況動画を授業としてあげ、オンラインツールで確認テスト。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集や自作プリントを郵送し、その解説を配信し、課題提出。配信は、パワーポイントと音声の組み合わせで実施した。 ・プリントを郵送。まず、教科書等を参考に空欄補充、その後、論述問題を解く。論述問題はClassiで提出。 ・「生徒が自分で学ぶ」という制度設計で授業展開を築いてきたため、自宅学習期間中でも、授業展開に変わりはない。

- 学年共通で、まずは確認テストで学習内容の定着度を測る声が散見される。
- 2年生では履修順の変更や、オンラインとオフラインの活用など工夫されている。
- 3年生では、できるだけ履修を進める方向。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進める予定であるが、臨時休業が今後も発生することが想定されるため、学校に登校した時に、確認テストを行うことなどを考えている。 ・再開後の早い段階で、課題とした部分の確認テストを行い、定着度確かめる。その様子によって、補足的なことをやるか、計画通り、臨時休業期間中に進めた部分の次から進めていくかを考える予定。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「反転学習」と「オンライン授業動画」を用いてすすめているが、1学期は6～8時間しかないため、教科書の履修順を変更（戦後史→現代→戦前→大正→明治）した。3年生になった時、「現代社会」にスムーズにつなげられるし、就職希望者が就職試験で問われる時事問題に直結する現代史未履修を防げる。 ・オフラインとオンラインの両輪で進めていく必要がある。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業の前半を使ってできるだけ履修分野を進めていく予定。 ・授業プリントを簡略化し、1学期中に例年通りの授業進度になるように努めている。2学期以降は平常に戻す予定。 ・通常授業に戻った場合、行事などが削減された結果、通年の授業時間数を確保できる予定なので、普通に進める予定。

- 1 学年では生徒同士のかかわりを心配する声がある。
- 2 学年では、分散登校による授業の進度管理の煩雑さを懸念している。
- 3 学年では、履修範囲を通りに進めることが優先で、演習時間が少ないことへの懸念がみられる。

1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。進度の遅れは動画配信などで対応するしかない。 ・臨時休業期間中に教員と生徒の関わりは多少確保できたものの、生徒同士の関わりを今後どのように、どのくらい確保するかが課題。
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・分散授業だと、同じクラスでも進度に違いが生じるので、進度の管理が煩雑。 ・動画を作ること、繰り返し視聴し、学習効果の定着、特に下位層の学力向上が期待できる。一方で、ネット環境のあるものばかりではないため、そこへのフォローが喫緊の課題。
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・史料問題等の演習には、例年ほどの時間を割けない。 ・予定されていた学習範囲が到達できないので、配布して自学自習。 ・分散登校になった場合、選択科目履修者をさらに分散することが難しいため、オンデマンド授業の形態に切り替えることを想定している。課題もメールで配信する。 ・履修範囲を計画通り進めるためにはかなりのスピードアップが必要で、授業についてくることのできない生徒が出てくる予想で、その対策をどうするか。 ・自宅学習期間での学びの様子がほとんど見えない生徒への対応。全くやっていない者には学習方法の支援を進める必要が出てくるだろう。教員が教える形での支援ではうまくいかないと考える。

- 課題や動画などの配信を通して履修を進めている。
- オンデマンド型授業や、アンケート集計機能を利用した振り返りを行う学校もみられた。

<p>1学年 2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に要点を示してから教科書を読ませ、その要点に沿って内容をまとめる課題を出している。同じ学習方法を繰り返し実施することで、生徒が自分の考え方の成長や課題の意義・効果を感じやすいよう工夫した。(世界史) ・想定される授業回数分の教科書・準拠ノート・NHK高校講座と10min.の該当箇所を出題した。(地理)
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の動画を作成してYouTubeにUPしている。ただ、実際の授業よりも多少説明等を省き、時間を約半分程度に短縮した。(世界史) ・書く作業によって頭を動かさせるために、冊子化したプリントをレターパックで生徒に送付した。授業はiPadで書き込むことのできるアプリを用いて行った。2画面を一度に共有できる・動画がクリアに見えるなど、普段の授業より伝わりやすい点もあった。(世界史) ・教科書の内容整理のプリントとワークシートを冊子化して生徒に配布し、授業解説は5～10分の動画にして配信している。確認はアンケートおよびWEBテストを用いて行い、生徒の学習状況を把握できるようにしている。(世界史)

■ 臨時休業中に学習させた内容を復習しつつ、2学期の学習計画には影響がないよう進めるといった声が散見された。

<p>1学年 2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本来の授業で実施する予定の作業学習（地球儀づくり・主題図作成・貿易ゲームなど）は、感染拡大に配慮しながら行う。その後は、年間の予定に沿って進める。（地理）
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休業中に動画や課題で学習させた部分を復習しつつ、1学期終了時には元々の計画通りの範囲まで進むよう履修を進める。（世界史） ・実技教科を除くほとんどの教科でオンライン授業を展開しているので、学校再開後はそのまま継続して授業を進めていく。もし分散登校など、学校の再開の仕方によって遅れが出た場合も、2学期には影響がないように調整する。（世界史） ・古代から順番に進めていくが、入試において出題が少ない分野については端折って進める。（世界史）

■ 通常よりもさらに履修が厳しいという声や、臨時休業中の学習内容の定着に差があるので、夏季休業などで補習を行う必要があるか悩んでいるといった声があった。

<p>1学年 2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数が少なく、通常でも教科書の全範囲を終えることができないが、今年度はさらに厳しい。(地理)
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の受験までに教科書の内容がすべて終わるかどうか。(世界史) ・教師と生徒がお互いにオンライン授業に慣れ、メリットも見えてきたところなのに一度リセットされてしまう点。オンライン授業だからこそできていたことは、なるべく再開後の授業にも活かしていきたい。(世界史) ・7月いっぱい授業を行うことで履修進度には問題がなくなるが、生徒自身が勉強に費やす夏季休業が短くなってしまっているので、それにどう対応するか。(世界史) ・臨時休業中の学習内容の定着に差があるため、夏季休業を利用した補習などが必要かどうか。(世界史) ・学校再開を指針のように半数参加で進めていけば、前年度までの履修を終えることは不可能な点。また学期の評価については、既に中間考査は行っていないため、特殊な判断をせざるを得ない。(世界史)

公民

- 自宅学習が可能な分野は、紙のプリントやWEBテストを行ったという声があった。
- オンラインの授業を行い、生徒自身が考えて勉強に取り組める環境を整えたという声があった。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体のプリントを郵送した。（現代社会） ・Teamsによる授業を行った。生徒は授業に該当する教科書ページを読み、問題集を解く。質問があればチャットで対応した。時間が余れば追加問題に取り組み、最後に本日の振り返りと確認を行った。また、理解が難しい内容は動画を小分けにしてYouTubeにアップし、各生徒が必要に応じて視聴できるようにした。（政治・経済） ・Teams内で「難民」「男女平等参画社会の実現」などについての議論のスレッドを立て、議論を行った。教室よりも物理的距離があるオンラインの方が、積極的な発言がみられた。また、文字を打ち込む際に思考を整理した形跡がみられ、よい議論が展開された。（政治・経済）
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導とHRを分離するのではなく相互に影響を与え合うシステムづくりに取り組んでいる。（倫理）
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読んで、WEB上に作成した確認テストを受けさせた。「現代の諸課題」の分野なので、自学が可能であると判断した。学校再開後に復習を行う予定。（現代社会）

■ 長期休業や次年度で補える部分を整理するという声や、学校再開後もオンラインを活用した学びを進めるといった声があった。

<p>1学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業の短縮など。（現代社会） ・オンラインに適したものは、学校再開後もオンライン上で実施していきたいと考えている。オンラインへのアレルギーが教員も生徒もよい意味でとれたので、積極的にオンラインを活用し、学びを深めたい。オンラインで履修進度は確保できているが、理解の定着をしっかりと見極め、夏以降は通常の履修予定に戻れると想定している。（政治・経済）
<p>2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他科目で行われている、オンラインを活用した動画を含めた予習→授業→復習の学習サイクルを参考に、予習部分の質を高める。（倫理） ・次年度にまわす分野を考える。（倫理）
<p>3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に政治分野を学習するが、「現代社会」で学習した内容と重なる部分もあるので、その部分については臨時休業中の課題プリントで確認させている。学校再開後は、その課題内容を授業の導入として使い、時間の短縮を図る。（政治・経済） ・臨時休業期間中に課した範囲については、WEB上の確認テストで習熟を把握したうえで、足りない部分について補足する授業を行う。また、従来よりも内容を精選し、授業を行う予定である。（現代社会） ・長期休業中の講習で補う。（倫理）

■ オンライン授業によって生まれた学力差のケア、授業時数の確保についての不安や、グループワークなどの授業形態も再考する必要があるという声がみられた。

1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生に関しては1月末までに終わるのかという単純的な不安と、様々な学校・対外行事の延期などによる授業時数の確保。(現代社会) ・オンライン授業において個別最適化を目指したために、それに応じて力を伸ばせた生徒とそうでない生徒の二極化が生じてしまったと予想され、そのケアをする。(政治・経済)
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では通常業務とオンラインの運用でマルチタスクの状態になっているため、今後は授業を計画する際に意図的にオンラインの使用場面を組み込み「対面でなくとも可能な部分」をみつけていくことが必要だと感じている。(倫理)
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のため、グループワークを行う部分についてどうすべきか悩んでいる。(現代社会)

5 教科以外 (保健体育など)

- オンラインで実施できない実技などは、レポートで代替するなどの対応をとっている。
- 臨時休業期間中の運動不足解消につなげるために、保健体育を位置付ける学校もあった。

1学年	<ul style="list-style-type: none">・授業で必ず行う「学校独自の体操」を、動画配信した。（保健体育）・1年生は教科書の骨・筋肉の名称を覚える。（保健体育）・簿記の授業において「NHK高校講座」を視聴した上で課題に取り組むように指示した。（商業）
2学年	<ul style="list-style-type: none">・当初の指導計画に沿った履修は困難なため、毎日の運動習慣に結び付くよう記録形式での運動と、種目を選びレポートを行う課題にした。（保健体育）

- 保健体育については、三密にならないような配慮を行いながらも「実技」ができるように調整している。

1学年	・密にならない整列隊形、授業前後の手洗いうがいの励行、マスクの使用有無など配慮しながらも、運動量は段階的に増やしていくよう調整。（保健体育）
2学年	・40人態勢での授業が困難なため、1クラスを3～4つのグループに分けて展開授業とし、3～4種目を全員ができるようにする案が出ている。（保健体育）

- 資格取得を目標にしている場合、検定日にあわせて授業進度を早める必要がある。
- 保健体育は「実技」を行うにしても、様々な制約があるために例年通りの評価方法・評価観点では対応できない可能性がある。

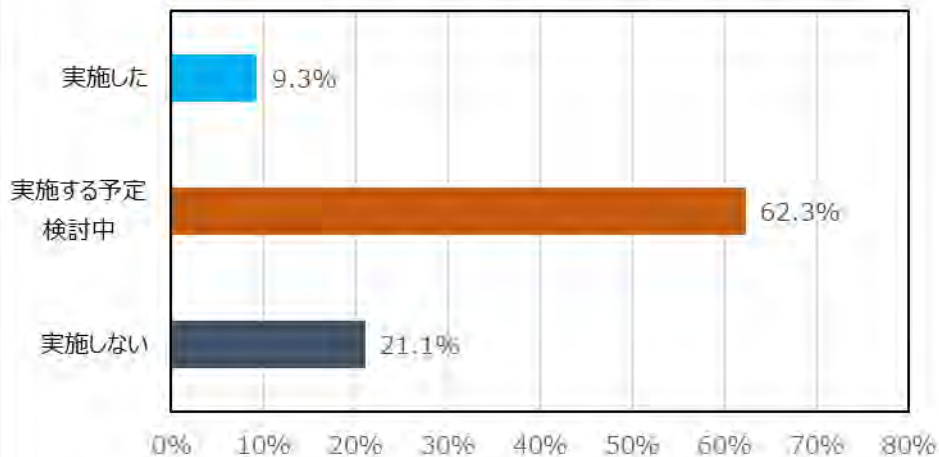
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を目標にしている科目のため、検定日までに学習範囲を終わらせなければならず、ポイントを絞った授業展開が必要になる。（商業） ・接触プレイのある競技について、どこまで認めるか。また、雨の場合、活動場所が限られ、体育館がかなり「密」になることが予想される。（保健体育）
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば水泳に関する指針がはっきり出でず、種目が限られてしまう可能性があるため、評価の出し方などが課題（保健体育）

**② 臨時休業中の学習内容の定着度および
学校再開後の学習評価の検討状況について**

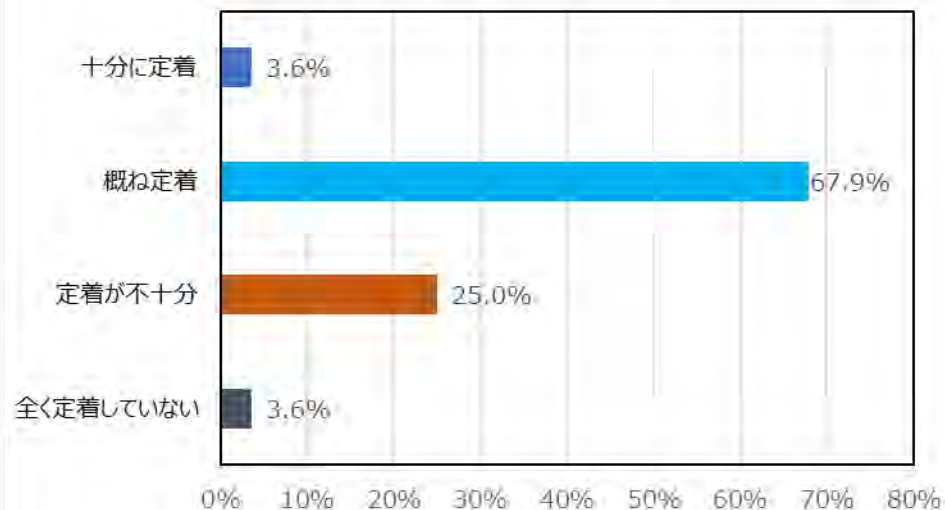
- 「学校再開後に臨時休業中の学習内容の定着度を確認するテスト」を実施済or検討中の学校は約71.6%
- 定着度を確認するテストを実施した学校のうち、約71.5%の学校が「学習内容の定着度」について十分に定着or概ね定着と回答している

【学校再開後】

臨時休業中の学習内容の定着度を確認するテスト

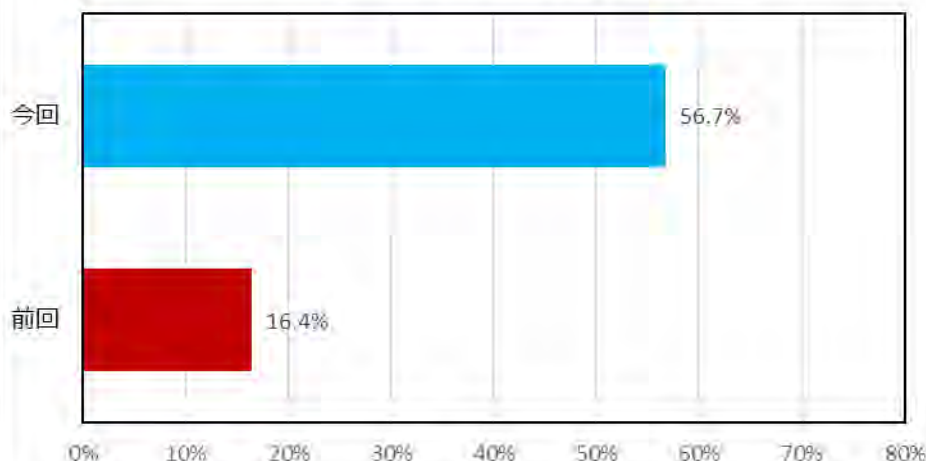
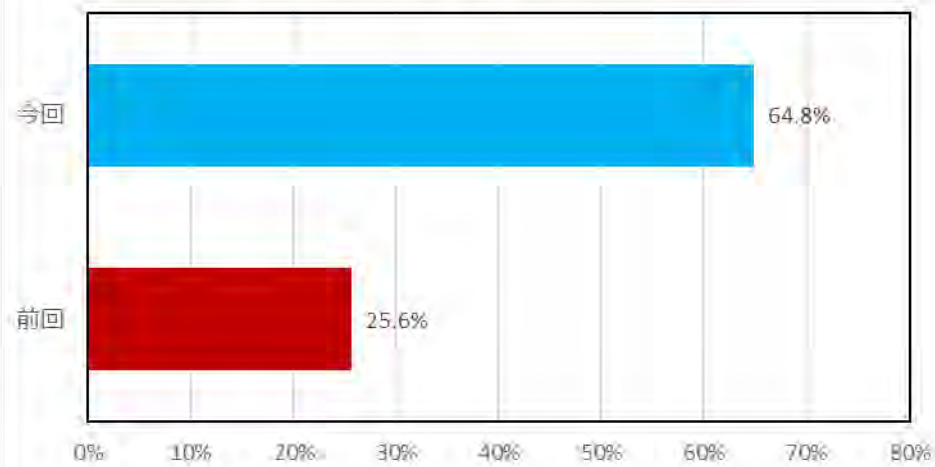


学習内容の定着度（テスト実施校のみ）



- 半数以上の学校で「定期テストの時期を遅らせる」「定期テストを部分的に廃止する」ことを決定している
- いずれも前回から「決定」の割合が大きく伸びており、約1か月の期間で校内での検討が進んだと考えられる

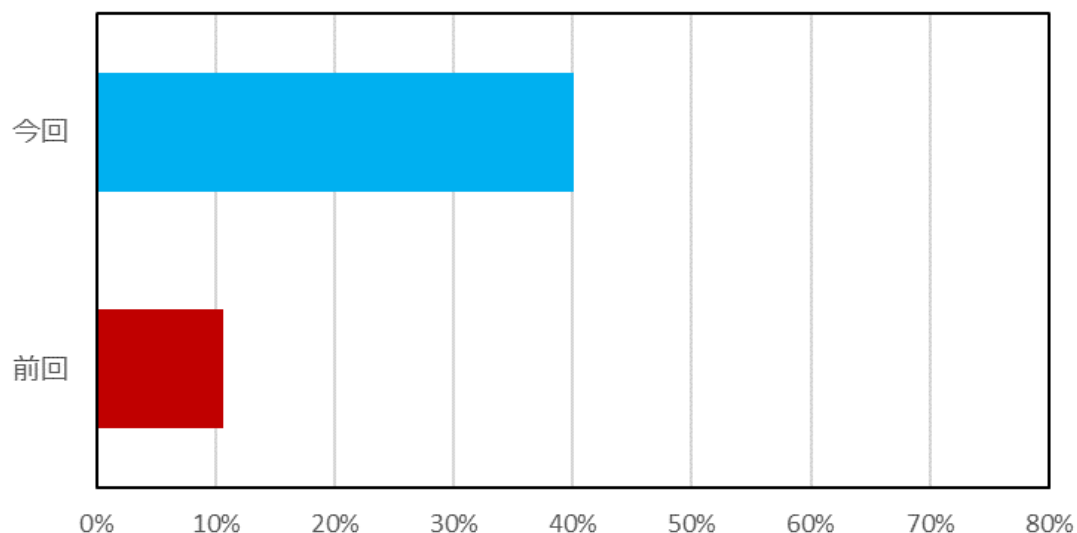
定期テストの実施時期を遅らせることを決定

定期テストを部分的に廃止することを決定
(中間考査をやめ、期末考査だけにするなど)

※前回…2020年4月20日（月）～5月1日（金）の回答期間

- 「家庭内での学習を評価に組み込む」ことを決定した学校は約40.1%
- 前回から「決定」の割合が大きく伸びており、約1か月の期間で校内での検討が進んだと考えられる
- 「家庭内での学習を評価に組み込む」ことを決定した学校のうち、約68.7%の学校が「定期テストを部分的に廃止する」も決定している

家庭内での学習を評価に組み込むことを決定



※前回…2020年4月20日（月）～5月1日（金）の回答期間

③ 受験生切り替えを促すための取り組みについて

■ 受験生への切り替えを促すための取り組みとして複数の声が挙がったのが、「従来の切り替えの機会の代替としての行事の実施」「進路行事の実施」「面談の実施」「情報発信」「学習指導」「ポートフォリオの活用」の6点だった。

【従来の切り替えの機会の代替としての行事の実施による切り替え】

- ・校内の体育祭や文化祭等を（授業確保との葛藤はあるものの）できるだけ実施して切り替えていければと考えている。（公立・茨城県）
- ・代替となる行事が実施される競技があれば、その行事への参加を優先させたいと考えている。（公立・長崎県）

【進路ガイダンス・進路集会等の進路行事による切り替え】

- ・進路ガイダンス動画を作成し、視聴するように伝えている。（私立・東京都）
- ・業者による進路ガイダンスを学校再開後にオンラインで実施予定。（私立・千葉県）
- ・志望理由書を臨時休業中の課題とし、学校再開後は早々に進学と就職に分けた進路集会を開催予定。諸手続きや進路決定までの流れを説明することで、進路意識の向上を促す。（公立・兵庫県）

【面談を通じた切り替え】

- ・臨時休業期間中に三者面談を実施しており、その中で家庭と連携して、切り替えの動きを本格化させようとしている。（公立・北海道）
- ・部活動顧問による3年生部員との個別面談。代替試合が実施される場合、引退時期をいつにするか、生徒の気持ちを尊重しながらのヒアリングを実施予定。（公立・青森県）

【情報発信による切り替え】

- ・進路情報をオンラインで発信し、意識を常に切らさないようにしている。（私立・東京都）
- ・休業期間中からコロナによる様々な行事の延期、変更、中止があるが、進路関係の行事（模試等）については変更なく進めていくと情報発信。生徒、保護者が不安だからこそ、教員側の姿勢がぶれることのないように、進路指導部として情報発信しようと考えている。（公立・京都府）

【学習指導を通じた切り替え】

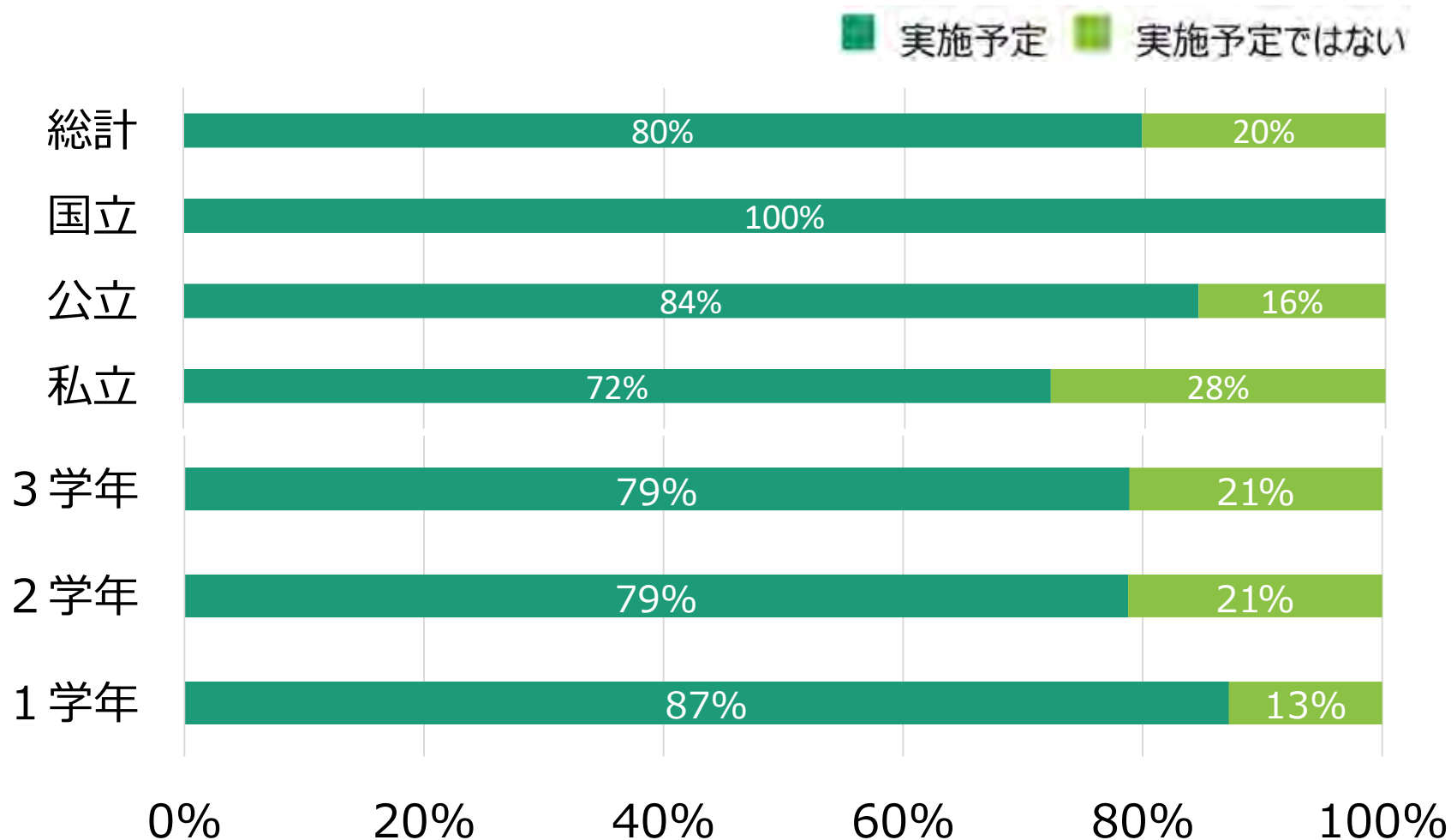
- ・進路学習プリントを作成した。学年での進捗状況を統一化し、生徒に安心感を与えるため。（私立・北海道）
- ・課外講習の前倒し。本来は高校総体引退後にスタート予定だった講習を5月下旬に変更。また、5月中は授業開始が通常より40分遅いため、3年生のみ通常通りの登校を促し、0校時授業を実施することで、学習に向かう雰囲気をつくっている。eポートフォリオに毎日学習記録をつけさせ、教員がアドバイスすることで、受験生としての意識づけを図っている。（公立・青森県）
- ・模擬試験を通じて、受験生としての意識づけをさせる。（公立・静岡県）

【ポートフォリオを活用した切り替え】

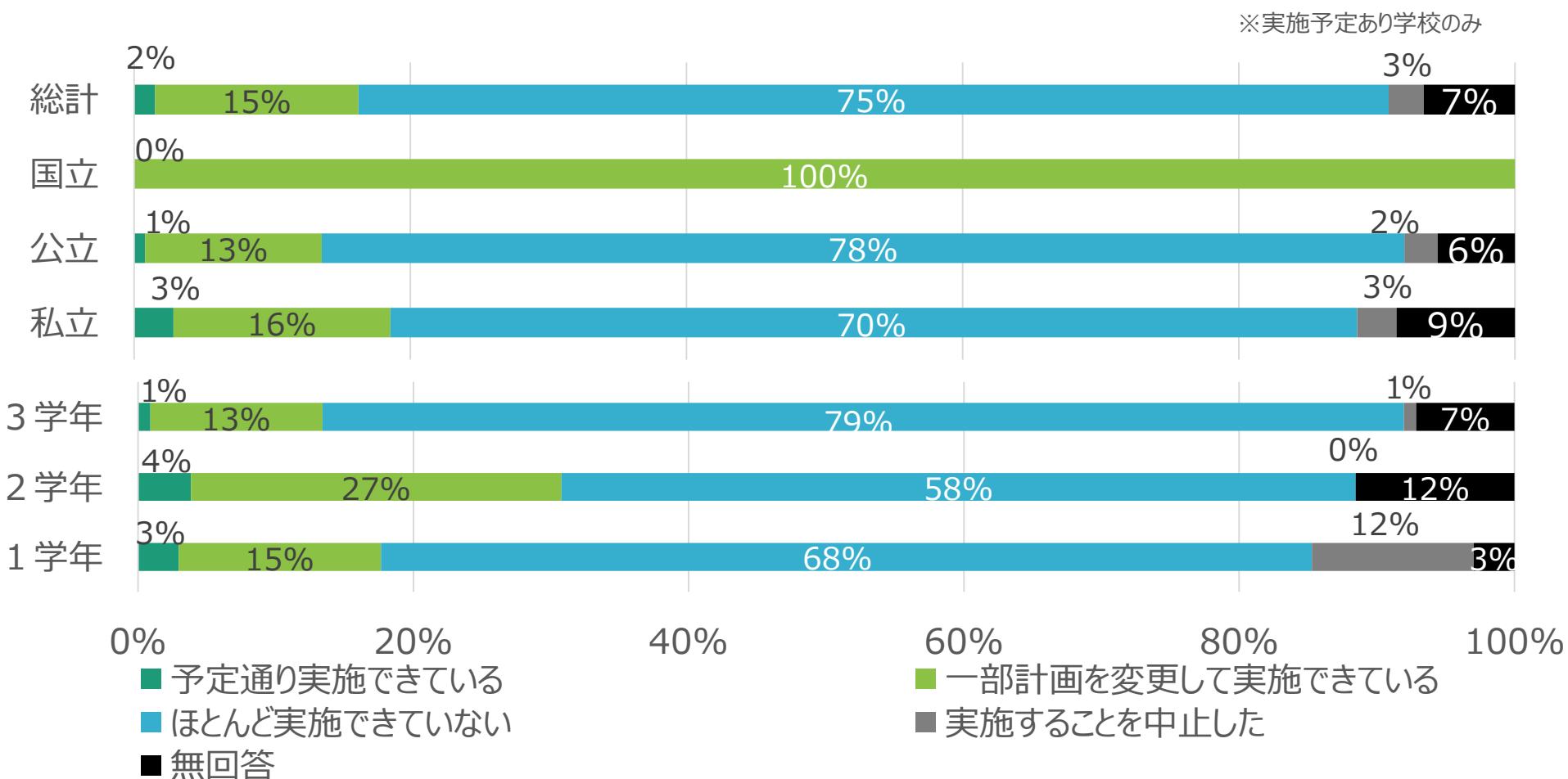
- ・ポートフォリオで経験をまとめ、面接で生かすように指導。（公立・北海道）
- ・志望動機等をポートフォリオに書いて添削する等の指導を通して、少しずつ切り替えを促している。（公立・栃木県）
- ・ポートフォリオ作成を呼びかけようと思っている。早いうちに面接指導の準備を整え、生徒に高校生活での取り組みや進路先での学習について言語化する練習をさせたい。（公立・東京都）

④ 探究学習の実施状況と今後について

- 臨時休業前に、2020年度に「探究学習」を実施する予定であった学校は総計で80%。
- 学年別で見ると、1年次の実施予定率が約90%と、他学年よりも高かった。



■ 2020年度、「探究学習」を実施する予定であった学校のうち、予定通り実施できている学校は2%、一部変更しての実施は15%、ほぼ実施できていないが75%、中止が3%。設置区分別では、公立よりも私立の方が実施割合がやや高い。



- 臨時休業中、制限がありながらも、オンライン会議ツールを用いて自宅での探究学習を行うなどの工夫がされていた。
- 実施が難しくなった行事の時間を探究学習にあてる、あるいは授業時数を調整するなどして探究学習の時間を確保した学校もみられた。

【自宅で「探究学習」を実施】

- ・家庭で自学できることについては、臨時休業期間に取り組ませた。しかし、生徒への浸透度が心配。(公立・北海道)
- ・分散登校で各生徒の進捗状況をチェックした。(公立・広島県)

【オンライン会議ツールを活用】

- ・4月の緊急事態宣言が出される前に、校内で先生方に課題研究の進め方の研修会を行い、急遽オンラインの設定を行った。(公立・神奈川県)
- ・オンライン上で、学外にある講演や活動を積極的に宣伝。(私立・神奈川県)
- ・オンラインでの課題配信方式で実施した。(私立・大阪府)
- ・Zoomを使うことで、遠隔で可能な部分は進められている。ただ、グループでの活動や中間発表などは現在行えていない。(私立・鹿児島県)

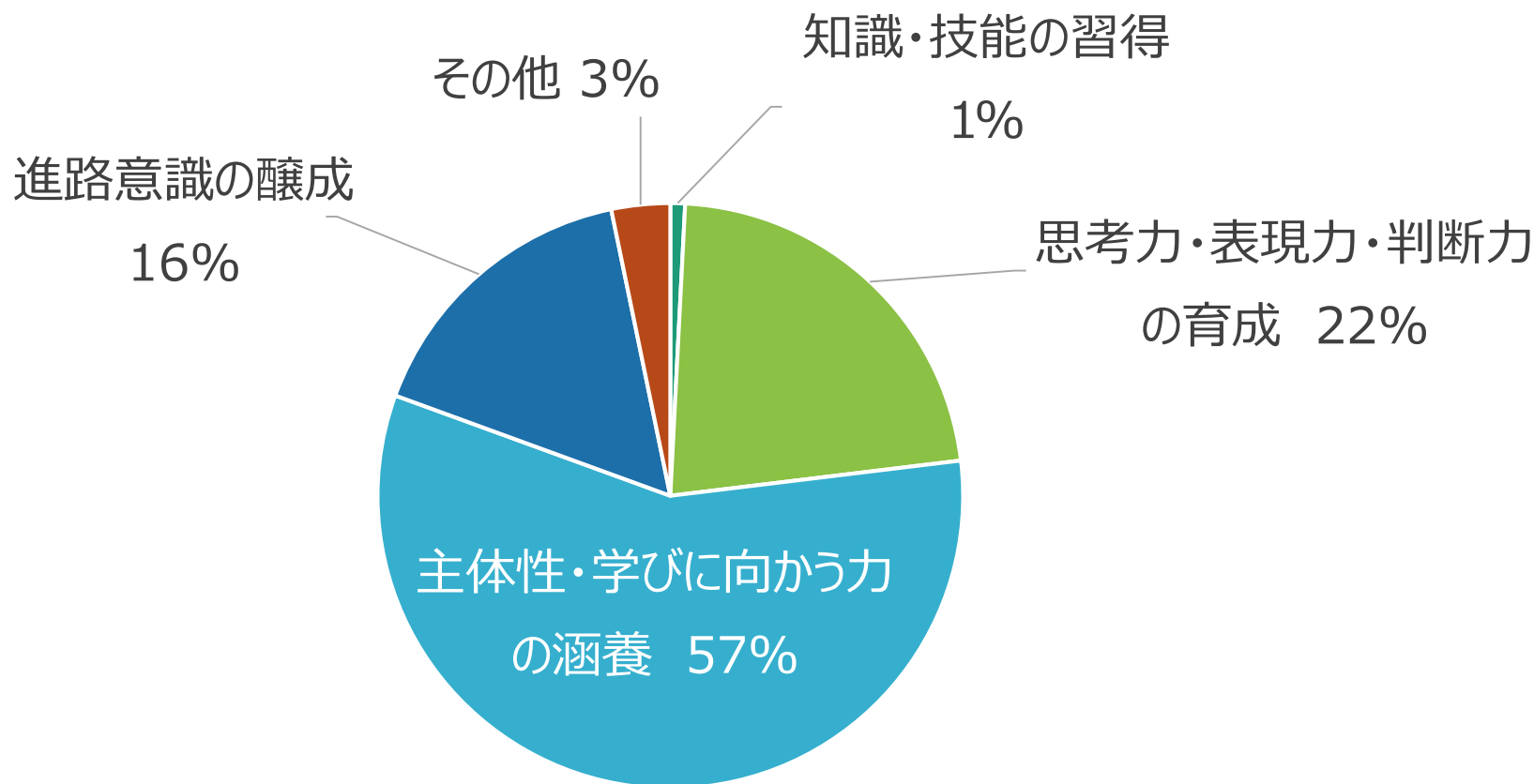
【他の行事の変更のため】

- ・インターハイの中止に伴い、県の高校総体も中止になったため、壮行式や結果報告会などの一連の行事を探究学習に振り替えることが可能になった。また、実施内容をコンパクトにすることで、予定していた内容は実施できる見通しである。(公立・青森県)

【授業時数を変更し実施】

- ・学校再開後の探究活動の時間の見直しと精選。(公立・三重県)
- ・4月に実施予定の授業を後ろへ移動、または時数を減らして計画を変更した。身につけさせたい力を定め、それをどのように達成するかを検討した。(公立・島根県)

■「探究学習」に最も期待していることは、「主体性・学びに向かう力の涵養」という回答が最も多かった。



- 「主体性の涵養」「進路意識の醸成」のために重要。また、「探究のプロセスを経験させること」や「地域協働」は、現状においてこそ重要といった意見もあった。
- 大学入試においても、「探究学習」で培うことのできる資質・能力や進路意識の醸成は有用と考えられている。

【主体性の涵養】

- ・ 自宅学習が長期化する中で、探究学習を通して身につけた主体性や学びに向かう力が発揮できた生徒と、そうではない生徒に、数値で測ることのできない差が生じていると感じている。そのため、従来より一層重視すべきことが明らかになったと感じている。（公立・北海道）
- ・ 臨時休業中だからこそ、主体性が問われるので、主体的に調べ、考え、表現する習慣を身につけさせたい。アフターコロナ、ウィズコロナ社会の力になると思う。（私立・東京都）
- ・ 探究活動と進路意識の醸成がマッチすることで、主体的に学びに向かう力が涵養されていく。言わばエンジンを動かしていくエネルギーを探究学習から得てほしい。（私立・神奈川県）
- ・ 「主体性・学びに向かう力の涵養」という点においては、すべての教科・科目の大前提となるものだから。（私立・兵庫県）

【進路意識の醸成】

- ・ 将来の進路選択や生き方を考える時に、広い視野や考え方を得る一助になると考えるから。（公立・東京都）
- ・ 進路に対する意識が弱く、大学に行ってから何をしたいのかが明確でない生徒がいまだに多いため。（私立・千葉県）

【入試への活用】

- ・本校では、大学、短期大学入試における学校推薦型選抜、総合型選抜受験の割合が高いため、探究学習によって学ぶ目的を深掘りさせることができるから。（公立・宮城県）
- ・本校は、思考力やプレゼン能力を活用して進学に結びつける生徒が圧倒的に多いため。（私立・東京都）

【探究のプロセスを経験することの重要性】

- ・知識注入型の学習ではなく、探究学習によって自ら学ぶ姿勢が養われると考えている。興味を持って調べたり、自ら知ろうとしたりして得た知識が教養になると思う。（公立・福井県）
- ・教科の枠を超えて、複合的に物事を検証・理解・探究することは、人間力を高める上でも重要であるから。（私立・大阪府）
- ・将来、生徒が課題に対して問いを立て、考察・研究していくことは、社会が変わっても必要なスキルであると考えているから。（私立・鹿児島県）

【地域との協働の重要性】

- ・本校の探究学習は、地域の人たちの協力を得ながら、生徒自身も主体的に考え、計画し、実行していくものである。達成感や充実感を得られる機会でもあり、大切な学習活動だと思う。（公立・北海道）
- ・本校は「地域との協働」を柱に掲げているが、臨時休業、外出制限（自粛）は、逆に今まで見ていなかった身近な地域への目を開く絶好の機会になると考えている。何よりも多くの学校で「探究」を諦めている中、1年生から系統的に実施してきている本校はアドバンテージがあり、アピールできる絶好のチャンスであると考えている。（公立・兵庫県）

■「新型コロナ」という社会問題の影響を踏まえて、「テーマ設定」「外部連携」「実施形態」において工夫点を模索しながらも、課題を感じているという意見が多かった。

【テーマ設定】

- ・新型コロナやSDGs など、タイムリーな視点を盛り込むこと。（公立・三重県）
- ・今年度は新型コロナと切り離れた探究学習は不可能ではないかと考えている。1年生の地域探究では、休業要請下での各施設・企業・店舗の取り組みを、2年生の職業人インタビューでは、在宅勤務や営業自粛等による働き方の変化の中で、（両親など身近な）職業人が仕事にどう向き合い、どのように考え方や価値観を変化させたかを探らせるようにした。また、例年は夏休みの課題としているが、前倒しで休業中の課題とすることで、逆にリアリティーを持たせるように工夫した。3年生の「課題研究」についても、分散授業を前提として、調査、研究活動は自宅で、分析、まとめを学校でというように、学校での活動内容を厳選した。（公立・兵庫県）

【外部連携】

- ・外部とのつながりを重視した取り組みを取り入れていく。（私立・神奈川県）
- ・感染対策を施した上での外部連携のあり方について、苦慮している。ボランティアでは、施設訪問などができないため。（公立・福岡県）

【実施形態】

- ・今後はクラス単位で進めることが多くなると思われます。そこで、これを機会と捉え、各担任・副担任に探究活動について理解を深めてもらえるよう、指導案を詳細に作成し、認識のすり合わせをするよう考えています。（公立・栃木県）
- ・新しい生活様式のためにグループワークが難しくなるかもしれない。一人ひとりが内省し、研究や発表ができる取り組みを考えている。難しいことではなく、「自分語り」がしっかりとできる生徒を育てる工夫をしたい。（公立・京都府）
- ・大きな発表の場をつくるのが難しいと思っている。その際、オンラインで発表をするべきか、発表の場を設けないのかなどを他校に聞いてみたい。（私立・鹿児島県）

【そのほか】

- ・生徒の考えを引き出す傾聴スキルを教師が養うこと。教師は教えるのではなく、支援する立場に徹すること。その共通認識と実践力が問われます。他校はどのようにして、学校全体でファシリテーション・スキルを上げているのでしょうか。（私立・神奈川県）
- ・隣に誰かがいるから話し合ってみようではなく、話し合う必要があるから、その方法から考えるという、より本質的な活動を厳選していくことになると思う。（私立・大阪府）
- ・それぞれの活動で育成を目指す資質・能力を整理して、全体計画を作り上げ、学校行事や各教科・科目とのつながりを明確にする。（公立・島根県）
- ・限られた時間を有効に使うために、今まで以上に教科間・科目間の連携を図っていく。（私立・兵庫県）

■ オンラインツールの活用によって、「探究学習」の可能性が拡大したという意見や、「生徒主体の学び」の機会を設けたい、という意見があった

【オンラインツール活用による可能性拡大】

- ・フィールドワーク等が困難になることが考えられるので、オンラインで各所と結び、生徒の学びを支援する仕組みが構築できないかと思います。（公立・宮城県）
- ・学校内でとどまる必要は全くない。生徒は、他校の生徒や外部の方々と対話することが容易になったと感じました。（私立・神奈川県）

【「探究学習」の重要性を再認識】

- ・今回の事態は、家庭学習の定着や探究的な学習をする力をつけるにはいい機会だと思った。ただ、私たちは授業の遅れを第一に考えてしまったと思う。（公立・東京都）
- ・新型コロナウイルス感染拡大は、日本の社会システムの問題点をいくつも浮き彫りにした。社会の仕組みそのものを再構築していく人材を育成するためにも、既存の教育とは異なる新しいカリキュラムや方向性を模索することがさらに重要になると思う。探究的活動もその1つとして、さらに実践や研究が深められるべきである。（公立・大分県）

【生徒主体の学びについて】

- ・教師先導型から生徒自発型に、さらなるシフトチェンジが必要。（公立・北海道）
- ・生徒が学校外でも、課題に自主的に取り組めるような課題研究のあり方はないかということ。（公立・群馬県）

Benesse High School Onlineにログイン後、各資料リンクへアクセスしてください

【Benesse High School Online】<http://www.bhso.ne.jp>

【新型コロナウイルス感染症拡大に関連するご案内】

新型コロナウイルス感染症拡大への対応やお役立ち情報についてまとめております。

[BHSOトップ](#)> [新型コロナウイルス感染症拡大に関連するご案内バナー](#)

【第1回「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校指導への影響に関するアンケート」結果レポート】

臨時休業下での高校現場の状況と、臨時休業明けの見通しについての調査結果です。

[BHSOトップ](#)> [新型コロナウイルス感染症拡大に関連するご案内バナー](#)> [学年共通](#)

【クラス担任先生の教室/面談】

面談・声かけ事例、面談で使えるテクニックなどを掲載しています。

[BHSOトップ](#)> [担任](#)> [面談](#)

【クラス担任先生の教室/資料ダウンロード】

学級通信や実践事例など、クラス担任先生の生徒指導に役立つ情報を掲載しております。

[BHSOトップ](#)> [担任](#)> [資料ダウンロード](#)

【進路相談室】

Benesse情報センターに全国の先生から寄せられる進路指導に関するよくあるお問合せと、その解決策についてまとめております。

[BHSOトップ](#)> [進路](#)

【大学情報】

大学・学問について、その魅力や志望校選びのポイント、各大学から提供された、イベントや入試情報などの最新情報を大学ごとに掲載しています。また、ベネッセが分析した大学入試に関する情報を大学・学部・募集単位別にまとめた大学入試分析情報を掲載しております。

[BHSOトップ](#) > [大学情報](#)

【入試改革/新課程情報】

入試改革や新課程についての情報をまとめております。

[BHSOトップ](#) > [入試改革/新課程](#)

【受験レポート】

「教科試験以外の試験を課す入試」の内容について、実際に受験した生徒より提供いただいた情報を掲載しています。（情報提供にご協力いただいた学校のみ閲覧可能です。）

[BHSOトップ](#) > [入試](#) > [受験レポート](#)

【2021年度入試情報】

入試科目一覧などを掲載しています。

[BHSOトップ](#) > [入試](#) > [2021年度入試](#) > [入試科目一覧](#)

【学校推薦型選抜・総合型選抜情報】

2021年度入試 学校推薦型選抜情報一覧・総合型選抜情報一覧（国公立・私立）などを掲載しています。

[BHSOトップ](#) > [学校推薦・総合選抜](#)